

一過性脳虚血発作 (TIA) の早期受診について

神経内科医長 清水洋孝

1. TIAとは

一過性脳虚血発作(TIA:transient ischemic attack)とは、一時的に脳動脈が詰まり脳への血流供給が途絶えることにより脳梗塞と同様な症状が出現し、多くは1時間以内に改善するものです。従来考えられていた以上に短期間で完成型脳梗塞を発症するリスクが高いことが明らかになり、近年注目されています。

2. TIA定義の変遷

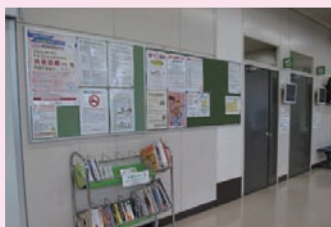
従来、TIAは24時間以内に消失する神経症状と定義されていました。症状継続時間のみによる診断で、CTやMRIなど画像検査での病変の有無は問われませんでした。海外では2002年にTIA Working Groupが、急性梗塞を伴わない、脳や網膜の局所虚血によって起きる神経学的障害の一時的発作で、通常は1時間以内の持続時間とする定義を提唱しました。さらに2009年に米国心臓学会/米国脳卒中学会が急性梗塞を伴わない、脳や脊髄、網膜の局所虚血によって起きる神経学的障害の一時的発作とする定義を提唱し、具体的な症状持続時間の区切りは無くなっています。

3. TIAの評価と治療

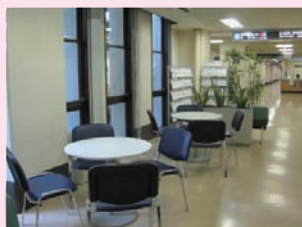
現在、TIA後の脳卒中発症リスクを予測するスコアとして、ABCD²スコアが広く用いられています。これは、A(age)、B(blood pressure)、C(clinical features)、D(duration)、及びD(diabetes)の合計点で脳梗塞の発症リスクを評価します。TIA発症2日以内の脳梗塞リスクはABCD²スコアが0～3点では1.0%、4～5点では4.1%、6～7点では8.1%であり、その点数が高いほど脳梗塞リスクが高いとされています。脳卒中治療ガイドライン2009では、TIAを疑った場合、可及的速やかに発症を確定し、脳梗塞発症予防のための治療を開始しなければならないとしています。当科においては、以前よりTIA症例も脳梗塞症例に準じて嚴重に精査加療を行っており、当科受診のTIA症例120例中では症状出現後90日以内に脳梗塞を発症したのは1例のみでした。例え症状が消失したとしても安心せず、これが脳梗塞の前兆であると考え、専門医療機関を受診する事が重要と考えますのでご相談ください。

表	ABCD ² スコア
A. 年齢(age):60歳以上	1点
B. 血圧(blood pressure) 収縮期 ≥ 140mmHg and/or 拡張期 ≥ 90mmHg	1点
C. 神経症候(clinical features)	
・片側の運動麻痺	2点
・言語障害	1点
D. 症状の持続時間(duration)	
・60分以上	2点
・10～59分	1点
D. 糖尿病(diabetes)	1点

患者さんの待ち時間の改善をはかるために、外来の環境を見直しました



■ 寄贈図書や健康雑誌など患者さんの図書コーナー



■ テーブルを囲んで休憩や語らいのスペースを設けました

